

## [043]中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1495230>

---

出版情報：中国文学論集. 43, 2014-12-25. 九州大学中国文学会  
バージョン：  
権利関係：



## 編集後記

本号は、竹村則行先生のご退職の記念号です。先生が平成二十六年三月を以てご退職なさるまで、最後の最後まで懇切にご指導いただいた私が、編集に携わることができ嬉しく思います。

竹村先生にお教えいただいたことを私なりに一言で表せば、それは「自分の読みに責任を持つこと」です。先生の授業では、レジュメに載せた一字一句全てを説明できるように準備をする必要がありました。それは、テキストに対する自分の読みを、他者の批判に耐えうるところまで深めるという作業でした。つまり、「自分の読みに責任を持つ」ということです。これは、文学研究のプロであれば当然の姿勢でしょうし、私もそう捉えて授業に臨んでいました。しかし、よくよく考えてみれば、この「自分の読み（敷衍すれば、自分の言動）に責任を持つ」ということは、人と人のつながり、即ち社会の中にあるものとして必要な姿勢でもあるでしょう。その責任を果たしてこそ「中にいること」ができるのです。そんなことを思い出しながら、今回一字一句に目を光らせる編集作業の一端を担いました。

学生だった頃は、竹村先生に朱を入れていただいた拙稿と向き合いながら、どう書き直すべきかうんうん唸っていたのですが、これからは朱筆から自分で責任を負わねばなりません。ごく当たり前のことですが、師という大樹

に守られていたことを改めて感じます。

折しも、中文研究室では今年度から目加田誠先生の北京留学日記『北平日記』の翻字と注釈を鋭意進めています。伝統のよって来たるところを思いながら、これからの中文研究室も中国古典文学研究の一拠点としてより一層発展していく姿をお見せするのが、師への何よりの恩返しなのでしょう。

末筆になりましたが、竹村先生の今後のご健康と更なるご活躍をお祈りいたします。

（甲斐雄一記）